

2014-2015
北信越ヤングオフィシャルキャンプ



HOKUSHINETSU
Young Official Camp
2015.1.23~25

主 催 北信越バスケットボール協会 審判委員会

主 管 新潟県バスケットボール協会 審判部

平成26年度 北信越ヤングオフィシャルキャンプ 実施要項

- 1、主 催 北信越バスケットボール協会 審判委員会
- 2、主 管 新潟県バスケットボール協会 審判部
- 3、期 日 平成27年1月23日（金）、24日（土）、25日（日）
- 4、使用大会 平成26年度 第46回北信越高等学校新人バスケットボール選手権大会
- 5、会 場 新潟市鳥屋野総合体育館、新潟市西総合スポーツセンター、北越高校
- 6、講 師 北信越バスケットボール協会 審判委員会
審判委員長 川端 孝博 氏
- 北信越バスケットボール協会 審判委員会
大倉 守正 氏
- 北信越バスケットボール協会 審判委員会
樋口 一正 氏
- 北信越バスケットボール協会 審判委員会
久保 まり 氏
- 7、受 講 生 北信越ブロック審判員（13名） 敬称略 県別
（石川県）礒野 峰 金城 美咲
（長野県）小金澤ななえ
（富山県）長島 嵩晃 上田 遼馬 川田 悠太
（福井県）辻崎 紀晶 日下 弘賢 渡辺 達朗
（新潟県）紺谷 智広 多田 智哉 内野祥太郎 熊倉 梨紗
- 8、日 程 23日（金）会場：新潟市鳥屋野総合体育館
16：30～ 開講式
挨拶 北信越バスケットボール協会審判長 川端 孝博 氏
北信越バスケットボール協会 大倉 守正 氏
- 講義
① 「上級審判員になるための活動方法」新潟県 鈴木 宏 氏
② 「トップリーグを経験して」 新潟県 大倉 守正 氏
- フィットネステスト

24日(土) 会場：新潟市西総合スポーツセンター、北越高校

10:00～ 実技研修

川端 孝博 氏 大倉 守正氏 樋口 一正氏 久保 まり氏

19:00～ 懇親会

25日(日) 会場：新潟市西総合スポーツセンター、北越高等学校体育館

9:00～ 実技研修

川端 孝博 氏 大倉 守正氏 樋口 一正氏 久保 まり氏

13:00～ 講義 会場：新潟市鳥屋野総合体育館

③ 「早期育成プロジェクトに参加して」 石川県 吉田 智子 氏

講義終了後 閉講式

挨拶 北信越バスケットボール協会審判長 川端 孝博 氏

北信越バスケットボール協会 大倉 守正 氏

平成26年度 北信越ヤングオフィシャルキャンプ 開講式

平成27年1月23日(金) 16:15～ 新潟市鳥屋野総合体育館審判控室

■講師挨拶 北信越バスケットボール協会審判委員会 審判委員長 川端 孝博 氏

数年前から北信越 YOC の機会を作ってきた。

我々が上級を目指していた時は県内で1番2番にならないとブロックに出ることが出来なかった。

この中からブロックを飛び越えて全国に行ってほしい。

この講習会は、新潟県の皆さんが準備してきた。感謝の気持ちをもって講習会に取り組んでほしい。



■講師挨拶 北信越バスケットボール協会審判委員会 審判委員長 大倉 守正 氏

昨年は YOC から A 級審査会へ1名が進んだ。

4名の講師が担当する。

限られた時間ではあるが、3日間宜しくお願いします。



【 講 義 】

平成27年1月23日(金) 新潟市鳥屋野総合体育館審判控室

講師 鈴木 宏 氏

テーマ:「 上級審判員になるための活動方法 」

- ・いろいろと環境が違うのでA級への答えは出してあげられないが、経験をお話したいと思う。
自分が考えたことは、A級審判になった時に自分がA級として活動できるかを考えた。
県内のいろいろな上級審判員の方々からお話を伺った。
自分は高体連であるが県内の各カテゴリーの試合をたくさん見に行き、どのようなカテゴリーも判定できるように努力した。
- ・自分はコーチとしても夢があり、審判に専念することに戸惑いがあった。
ただ、「覚悟」を決めて審判に専念することを決めた。
悔しさを経験して自分が変わったと思う。
若い皆さんに考えてほしいのはYOCに参加する意味をよく考えてほしい。
- ・WinWinの考え方
お互い立場は違っても両方に利益が出る考え。
レフェリーをしていると社会人としても成功すると自分は思っている。

明日からの講習会も頑張ってください。

<質問>

- ・A級への打診をされて引き受けた理由は？
- ・コーチとして一回だけブロック大会に参加したことがある。
レフェリーとして活動していると自チームの結果がでないのではないかと思った。
ただそれだけでは変わらないと思い、審判とコーチ業を両立できるように自分を変えようと思い上級審判を目指すことにした。

講義の様子



平成27年1月23日(金) 新潟市鳥屋野総合体育館審判控室

講師 大倉 守正 氏

テーマ:「 トップリーグを経験して 」

・私は高校の教師であることから、顧問の先生から審判をしてくれと頼まれて始めた。

最初はよくわからなかったが、審判を重ねるごとに楽しさが出てきた。

・WJBL1年目はA級トライアウトで参加することが決まった。

同じ年にAA級審査会を受けた。

一年目は一生懸命にがむしゃらに走って動いて判定を心掛けた。

・WJBL2年目はAA級審判として迎えた。

県外の割当てもいただき、AJにも参加することが出来た。

・今年度は、NBL審判員として活動している。

精神的な部分では、いろいろなレフェリーを経験し平常心を心掛けている。そうすることによって、コート内外がよく見えてくる。県外に出る機会が多いが、普段から生活に気を付け自分の職務を全うしていれば土日県外のレフェリーがいいレフェリーになると思う。

・講習会期間中、講師の先生方にいろいろと質問をしてほしい。我々講師も質問しやすい雰囲気作りを心掛けたと思う。

講義の様子



[講習会の様子]

・ 1月24日（土） 会場：新潟市西総合スポーツセンター

富山商業高校（富山） VS 帝京長岡高校（新潟）

主審：日下弘賢（福井）

副審：磯野 峰（石川）

講師：大倉 守正 氏



桜井高校（富山） VS 金沢市立工業高校（石川）

主審：辻崎 紀晶（福井）

副審：多田 智哉（新潟）

講師：川端 孝博 氏



富山商業高校(富山) VS 藤島高校(福井)

主審:紺谷 智広(新潟)

副審:上田 遼馬(富山)

講師:大倉 守正 氏



屋代高校(長野) VS 桜井高校(富山)

主審:長島 嵩晃(富山)

副審:内野 祥太郎(新潟)

講師:川端 孝博 氏



・1月24日(土) 会場:北越高等学校

岩村田高校(長野) VS 龍谷富山高校(富山)

主審:金城 美咲(石川)

副審:熊倉 梨紗(新潟)

講師:久保 まり 氏



北越高校(新潟) VS 岩村田(長野)

主審:小金澤 ななえ(長野)

副審:川田 悠太(富山)

講師:樋口 一正 氏



・ 1月25日（日） 会場：新潟市西総合スポーツセンター

屋代高校（長野） VS 松本第一高校（長野）

主審：長島 嵩晃（富山）

副審：上田 遼馬（富山）

講師：樋口 一正 氏



新潟商業高校（新潟） VS 富山商業高校（富山）

主審：渡辺 達朗（福井） 副審：辻崎 紀晶（福井）

講師：大倉 守正 氏



桜井高校(富山) VS 新潟産大附属高校(新潟)

主審:日下 弘賢(福井)

副審:磯野 峰(石川)

講師:樋口 一正 氏



高岡工芸高校(富山) VS 藤島高校(福井)

主審:紺谷 智広(新潟)

副審:内野 祥太郎(新潟)

講師:大倉 守正 氏



・1月25(日) 会場:北越高等学校

新潟中央高校(新潟) VS 東京学館新潟高校(新潟)

主審:金城 美咲(石川)

副審:小金澤 ななえ(長野)

講師:久保 まり 氏



岩村田高校(長野) VS 伊那弥生ヶ丘高校(長野)

主審:熊倉 梨紗(新潟)

副審:川田 悠太(富山)

講師:久保 まり 氏



平成27年1月25日(日) 新潟市鳥屋野総合体育館審判控室

講師 吉田 智子 氏

テーマ:「早期育成プロジェクトに参加をして」

1月10～12日にオールジャパンを使って、早期育成プロジェクトが開催された。

○平氏より研修の目的として

- ・早い段階から FIBA レフェリー資格所得へのモチベーションを高めることが大事である。
→そのためとして英語、ルールやコミュニケーション能力がベースとなってくる。
- ・早い段階から国内トップゲームを間近で見る、審判として触れる機会が大事である。
→その後試合についてディスカッションする大切さ

○レフェリーとして何を大切にしているか

- ・例えば受講生の考えとしては…
Always moving を忘れない。
鈴木先生は…
1ピリから自分を出していけるようにするため試合前は気持ちを高くもつ。
この考えはレフェリー仲間の意見を参考にした。
- ・判定 協力 ファーストコール ゲームコントロールなど
→メカニクスがベースになっている。メカニクスの重要性を再認識。
この考えを共有していく取り組みが大切である。

○研修内容について

- ・語学研修やルールテスト
2グループにわかれて実施、インタビューテスト→ルールテスト(30分)
内容については簡単な日常的なものであった。
この研修を経験し、英語に慣れていないことからくる緊張感を感じた。
- ・講師より
「相手に伝えようとする姿勢が大切なのである。」「身の回りの英語にしていけることが大切である。」
というアドバイスをいただいた。

○観戦やディスカッション

- ・3人の協力
共通理解 対応の徹底 信頼関係
- ・メカニクスについて
プレイを捉えるべき位置で判定している。センターレフェリーの役割の理解の徹底。
- ・ゲーム管理の重要性
対応の早さ、多方向に意識を向ける。
「全ては日頃からのゲームをどう取り組むか」「IH1回戦でも AJ 準決勝でも緊張感は同じである。」
→どんな場面でも、日頃と同じような取り組みが大事になってくる。
平氏によると
常に考えていることの重要性を意識するべきである。

○国際審判の活動報告

- ・FIBA レフェリーに求められる資質

語学力 コミュニケーション能力 パーソナリティ 危機管理能力 国の文化、歴史的な背景を知る(知らないためにトラブルにつながるケースも…)

- ・判定力やゲームマネジメントの重要性

- ・Physical Mentality skills など… + 周りのサポートがある。

アジア大会で感じたこと

欧州と異なりレベルが低いが、国の名誉と威信をかけた戦いである。

言葉だけでなく選手の意図を読み取ることも求められていく。

○AA 級取得までの国内での活動

男性、女性で審査会の対象ゲームが異なる。

細かく DVD (試合 10 分前より録画されている) を見ながらレクチャーを受ける。

○このプロジェクトを通して

- ・明確な目標設定

→何をやるべきか自分で考えることが大事である。

- ・コミュニケーション、仲間づくり

→県内外での情報共有の重要性を再認識した。

講義の様子



平成26年度 北信越ヤングオフィシャルキャンプ 閉講式

平成27年1月25日(日) 新潟市鳥屋野総合体育館審判控室

■講師挨拶 北信越バスケットボール協会審判部 審判委員長 川端 孝博 氏

3日間お疲れ様でした

感じて欲しいことは、研修で挙げられたような仲間を作る事、共に頑張っていくこと。

また、この研修を行うにあたって様々な方が準備に携わっていることを忘れないようにしてほしい。

こういう機会があったらまたがんばっていきましょう。



■講師挨拶 北信越バスケットボール協会審判部

大倉 守正 氏

緊張の中、3日間お疲れ様でした。

今回の経験をどう生かしていくのがポイントである。

この経験を自分のものにしてほしい。

もっと積極的な姿勢をみせてほしい。

また、今回の経験を県内のレフェリーにも広めていてもらいたい。

